

くまがわ・明日の川づくり報告会 VOL.30

開催地：八代市麦島校区

平成19年9月26日（水）、八代市麦島校区（会場：八代市農事研修センター）において、「くまがわ・明日の川づくり報告会」が開催されました。

同報告会には、約50名の方々にお集まり頂き、球磨川水系河川整備基本方針の内容や小委員会等での審議の状況についてご報告いたしました。

質疑の際には、下記のとおりご意見等をいただきました。

参加者数※

市内	45名
市外	3名

※参加者数は記名者数

住民の方々から頂いた主なご意見・ご質問

【河川整備基本方針の説明について】

- ・横石地点の基本高水流量の9,900m³/sという数字はピンとこない。
- ・人吉地点で4,000m³/sまで流せるとのことだが、4,000m³/sが流れた場合、人吉の下流は大丈夫なのか。
- ・100年に1度の規模の計画ということだが、（大規模な被害のあった）S40年から100年ということなのか。
- ・スライドで豊原が浸かったという説明があったが、どこが浸かったのか。
- ・農用地、耕地の洪水緩和機能に注目すべき。水田は水をため、地下水をつくっていく。水田の洪水緩和機能について小委員会では具体的にどう論じられたのか。
- ・棚田1.6haを含む67haの田んぼにおいて、全体で2.4%に過ぎない棚田をほったらかした場合、1/100のピーク流量が38%増えたという農水省の資料がある。水田の貯水、保水、水質を守る役割をきちっと評価すべき。
- ・スライドの説明にあった古い萩原橋の左岸側は、もともと遊水地になっていて浸かって当然のところ。洪水で浸水被害があったと言わないで欲しい。
- ・以前の八代校区の報告会で豊原、高田などが浸かったとの説明があったが、地元の方は浸かった覚えが無いと言っている。浸かったというのは事実か。

【球磨川の治水対策について】

- ・球磨川が1級河川となり県管理から国土交通省管理となり堤防が強化されて、洪水が減ったと感じる。しかし、荒瀬ダムについて、流量が増えたときに、荒瀬ダムのゲートを開ける警報が鳴ったとたんに水が溢れてきて堤防を越えた経験がある。ダムの開閉のタイミングで洪水がおきることがあるのではないか。ダムがもうだめだからと開けたら洪水ということがあるのではないか。
- ・球磨川堤防を歩いていると放置車両が10台くらいある。住民の力では排除できない。国交省で排除できないか。
- ・萩原堤防の7.6km地点が一番危険だと聞いていたが、他の深掘れ箇所から改修していくという話だった。萩原堤防の7.6km地点は危険でないという認識でよいのか。
- ・昨年川内川の流域で降った大雨が球磨川流域で降ったとしたら、川辺川ダムで対応できるのか。
- ・人吉市内で掘削すると人吉層が露出し、橋脚の基礎等が露出するおそれがあるので掘削はできないとのことだが、露出したら橋脚を補強すればよい。費用対効果の検討はしているのか。
- ・フロンティア堤防の可能性、その限界について聞きたい。
- ・麦島校区は南北を川に囲まれている。天井川になっているとしたら危険ではないのか。その対策はどう考えているのか。
- ・五木小川、川辺川に行ったが、堤防や道路などがずたずたにやられていて、崩落箇所もいくつかあった。

【球磨川の環境について】

- ・桜を堤防に植えてはダメだと国交省から言われたことがあるが、先ほどのスライドで堤防に桜を植えている写真があった。積極的に桜を植えていいのか。

- ・全国で尺鮎は球磨川にしかない。昔は八代でもたくさんとれていて、運動会の弁当のおかずはみんな鮎だった。
- ・今年の鮎の放流は75万匹とのことだが、昔は320万匹放流していた。
- ・今の球磨川は子供が川の中で遊ぶところも無い。水が濁っていて苔が生えない。ヘドロばかりで魚の住む川ではない。
- ・福岡の遠賀川は60年間鮎が戻ってこなかった。一度失われた自然は取り戻すことができない。川辺川ダムには反対。美しい自然を子孫に残さないといけない。

【その他】

- ・水田の保水機能を評価し、減反ではなく、耕作地を増やせないか。バイオエタノールで米作りをすれば（米を使ってバイオエタノール作りをすれば）地域振興にもなる。

※ ご発言をそのまま掲載するのではなく、趣旨を変えない程度にまとめさせて頂いています。

※ ご質問への回答については、アンケートで寄せられたご質問への回答と合わせて、後日 HP に掲載させていただきます。

